

第2回病院連絡会結果の概要（北河内二次医療圏）②

2 将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）・病床機能分化の方向性に対する見解

・将来のあるべき姿の到達度を測定する指標（案）については、病院連絡会において認識の共有を図った。

- 「高度急性期」の実態もわかりにくいいため、きちんと把握する必要があるのではないか。
- 高齢化に伴い、急性期医療の需要も増加するため、急性期病床を減らすわけにもいかない。今後は在宅医療や介護施設等を含めた医療介護連携・地域包括ケアシステムの充実強化により、その需要をカバーしていく等の取組が重要。
- 「回復期機能の充実」を指標とすることは理解できる。ただし、どういう病態の患者を回復期に移すべきかの認識は病院によって違いがあるなど、「急性期」「回復期」という言葉について各病院や関係者の解釈や認識にズレがあり、「回復期」の概念が曖昧である。
- 「回復期の機能が足りない」ということについては、実態をきちんと把握する必要があるのではないか。
- 回復期を充実させるには医師をはじめとするスタッフの確保が困難などの課題もある。
- 急性期から回復期への連携が十分でないなどの課題もあり、今後も国の診療報酬の動向や病院連絡会などを通じて共通認識を深めていくことが重要。
- 療養病床を減らすには、医療介護連携の充実が不可欠なのではないか。
- 医療連携にあたっては、市内や圏域に留まらない規模での要望に応えている病院もあり、広い視野での検討も必要。また医療圏を跨いだ連携の必要性もあるのではないか。

・増床の可否について議論することは、現場が混乱するので、府の方針を待ってから議論することとしてはどうか。

3 公立病院・公的病院・民間等病院（2025年に向けて病床機能転換の予定のある病院・非稼働病床を有する病院・プランに将来の病床機能、病床の運用状況の報告がない病院）の一覧（北河内二次医療圏）

区分	保健所	市町村	医療機関名	第2回病院連絡会出席状況	第2回病院連絡会でプラン内容を修正報告	許可病床数（一般・療養）	2025年に向けた病床機能・病床数等の変更予定の有無										非稼働病床について（一般病床・療養病床）		2025年に向けた病床数等の変更、非稼働病床を有する理由の説明に対しての、当該病院に対する他病院からの意見	
							（転換数）高度急性期	（転換数）急性期	（転換数）回復期	（転換数）慢性期	（転換数）合計	介護医療院への転換	介護老人保健施設への転換	その他介護施設・福祉施設への転換	第2回病院連絡会以後の転換予定病床	【プラン・連絡会での病院の説明】		非稼働病床数（許可病床数-稼働病床数）		【プラン・連絡会での病院の説明】 病床を稼働していない理由（非稼働病床を有する理由）
																機能変更（予定）時期	具体的なプラン			
1 公立	枚方市保健所	枚方市	市立ひらかた病院	○	-	327	0	0	0	0	0					-	地域の小児救急を担う。	0		-
2 公的	守口保健所	守口市	バナソニック健康保険組合 松下記念病院	○	-	323	0	0	0	0	0					-	『一般病床(53床)』から『緩和ケア病床(16床)』へ転換済み。急性期後、すぐに在宅復帰が困難な患者への対応もしていきたい。当院は健保組合立だが公的な位置づけもあると自認しており、大阪府がん拠点病院と地域医療支援病院として地域医療に貢献していきたい。建築後32年経過し、医療機能の拡充が難しくなっており、新病院の開設（建替え）を検討中。	0		-
2 公的	枚方市保健所	枚方市	国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院	○	-	313	0	0	0	0	0					-	地域支援病院として、高齢者救急を担う。	0		-
2 公的	枚方市保健所	枚方市	独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター	○	-	580	0	0	0	0	0					-	建替え予定有 それに合わせて病床も変更検討。	0		-
2 公的	枚方市保健所	枚方市	関西医科大学附属病院	○	-	751	150※	0	0	0	150※				○	未定	地域の基幹病院として高度医療の提供を担う。	0		-
3 民間等	守口保健所	守口市	学校法人 関西医科大学 関西医科大学総合医療センター	○	-	438	50※	0	0	0	50※				○	未定	大学病院として高度先進医療、急性期機能を提供するほか、災害拠点病院、救命救急センター、がん診療拠点病院など公的な役割を果たしていきたい。『高度急性期』機能の増強のため、増床（+50床）を図りたい。これは2025年に高度急性期病床が不足すると推計されたことから、救命救急センターを持つ医療機関としての役割を果たしたい。	0		-
3 民間等	枚方市保健所	枚方市	讃高会 高井病院	○	-	66	0	34	0	▲34	0				○	未定	慢性期（医療療養）34床を、急性期（10対1）10床、急性期（地域包括ケア）24床へ転換を予定。整形外科分野の急性期診療を提供していく。	0		-
3 民間等	枚方市保健所	枚方市	関西医科大学くずは病院	○	-	94	0	4	4	▲8	0				○	2018年以降	慢性期（医療療養）を減らして急性期（10対1）・回復期（回復期リハ）へ変更。	0		-

※現在、病床過剰地域であるため新たな病床整備は出来ないが、病院の将来構想としてプランを提出いただいている（新たな病床整備について、認めるものではない）。

区分 1 公立 2 公的 3 民間等	保健所	市町村	医療機関名	第2回病院 連絡会 出席状況	第2回病院 連絡会でプラン 内容を修正 報告	許可病床 数 (一般・ 療養)	2025年に向けた病床機能・病床数等の変更予定の有無										非稼働病床について (一般病床・療養病床)		2025年に向けた病 床数等の変更、非稼 働病床を有する理由 の説明に対する、 当該病院に対する他 病院からの意見	
							【プラン・連絡会での病院の説明】										機能変更 (予定) 時期	非稼働病床 数 (許可病床数- 稼働病床数)		【プラン・連絡会での病院の説明】 病床を稼働していない理由 (非稼働病床を有する理由)
							(転換数) 高度急性期	(転換数) 急性期	(転換数) 回復期	(転換数) 慢性期	(転換数) 合計	介護医 療院への 転換	介護 老人 保健 施設 への転 換	その他介 護施設・ 福祉施設 への転換	第2回病院 連絡会以後の 転換予定病 床	具体的なプラン				
3 民間等	枚方市保健所	枚方市	医療法人亀廣記念医学会関西記念病院	○	-	46	0	46	0	0	46					未定	現在休床の46床を急性期(15対1)の病床として稼働させる。	46	病棟のスタッフが確保できたら再開予定	-
3 民間等	枚方市保健所	枚方市	東香里第二病院	○	-	44	0	0	0	▲39	▲39	○				2018年8月	介護療養病床を介護医療院へ変更。	5	介護医療院へ転換後解消	-
3 民間等	枚方市保健所	枚方市	医療法人みどり会中村病院	○	-	206	0	▲4	12	▲8	0				○	未定	急性期(7対1)4床・慢性期(医療療養1)8床を回復期(回復期リハ)へ変更。	0		-
3 民間等	寝屋川保健所	寝屋川市	一般財団法人大阪府結核予防会大阪病院	○	-	161	0	8	12	▲21	▲1				○	2021年 建て替え 後	十数床の減床を予定しているが、現在、基本設計の段階で検討中。急性期への8床増床は、休床中の40床からの再稼働を示しているもので、将来的には急性期と慢性期を減床。回復期を増床予定。	40	医師不足のため。	-
3 民間等	寝屋川保健所	寝屋川市	医療法人 大慶会星光病院	○	-	107	0	0	0	18	18					未定	建替え後に、地域包括ケア病棟かホスピス病棟に転換したい。	18	旧館が老朽化しており、耐震基準に満たないため	-
3 民間等	寝屋川保健所	寝屋川市	医療法人 毅峰会青樹会病院	○	-	78	0	▲28	28	0	0					2018年9月	一般病棟を地域包括ケア病棟に転換済み。	0		-
3 民間等	寝屋川保健所	寝屋川市	医療法人一祐会藤本病院	○	-	150	0	▲2	0	0	▲2				○	2019年10月	本館の改築・耐震化工事が終了後、病床を新基準とし、若干の減床(2床減は確定)を行う。	0		-
3 民間等	寝屋川保健所	寝屋川市	松島病院	○	○	69	0	0	0	▲18	▲18	○				未定	介護療養病床18床を、将来的に介護医療院に転換予定。	0		-
3 民間等	四條畷保健所	大東市	医療法人若弘会わかさ電間リハビリテーション病院	○	-	500	0	0	46	▲46	0				○	2019年以降	介護療養病床46床を回復期リハビリテーション病棟に転換を予定。	0		-
3 民間等	守口保健所	門真市	社会医療法人蒼生会 蒼生病院	○	-	150	0	▲50	50	0	0				○	未定 (一部: 2018年2 月)	H29年7月に移転新築し、整形外科で50床以上を運用するとともに透析患者の受入も実施。 H30年2月に『一般病棟』の一部(17床)を『地域包括ケア病棟』に転換し(将来的には延べ50床の転換を予定)、ポストアキュートを担っていく。 在宅医療患者の増悪対応としてのサブアキュート機能の必要性を痛感している。	0		-

※太字は、第2回北河内医療・病床懇話会開催後に提出のあった病院プランの内容

【参考】北河内二次医療圏全体の病床機能別検討状況

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
公立	0	0	0	0	0
公的	0	0	0	0	0
民間等	0	8	152	▲156	4
全体	0	8	152	▲156	4

ただし、「※」の病床数については、現在、病床過剰地域であり、新たな病床整備はできないので、集計にカウントしていない。